



HPはこちら

# 東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合  
発責 教育・広報部  
2022年3月11日 No.430



## 2022春闘要求を勝ちとろう⑩

### 3月10日に第2回団体交渉を開催

### 昇給係数4は当たり前前の認識であり

### 昇給係数についての議論は今春闘が最後だ！

#### 定期昇給を実施し、昇給係数4を求める！

- ・すでに実施している会社諸施策など、多様な働き方により生産性は十分に向上している！  
また、原油価格高騰の影響により光熱費、食料品、生活必需品などの物価も上昇している。昨春の「昇給係数2」や「期末手当」に対する回答にも納得していない。このような現状を見ればベースアップが必要であるが、私たちは定期昇給の実施「昇給係数4」の要求に留めた、この苦渋の決断を経営側は受け止めるべきだ！
- ・定期昇給がない、55歳以上の組合員、エルダー組合員も生産性を向上させている。  
自らの賃金引き上げを差し置いてでも、将来にわたって発展し続ける JR東日本と、そこで働く社員とその家族のために「昇給係数4」が絶対であるとした、この想いを経営側は受け止めるべきだ！
- ・定期昇給は「昇給係数4」が当たり前前の認識であり、昇給係数についての議論は、今2022年の賃金改訂交渉で最後にしたい。
- ・いかなるビジネスモデルや経営ビジョンであっても、それを支え実現するには人材が必要である。社員が辞めてしまいたくなるような会社であってはダメだ！
- ・業績回復後にはこれらに加え、昨年の「昇給係数2」相当分もあわせて求める！

#### 第二基本給の廃止を求める！

- ・第二基本給の生い立ちを踏まえれば、JR発足当時の経営体力など当時と今では大きく変わっており、すでにその使命は終えている！

#### 特別加給の運用停止を求める！

- ・様々な施策や職場における取り組みに全社員が向かっている。一部の人が「特に優秀」と加給をする必要があるのか。厳しい収益の中でも増収を生み出したすべての社員が優秀であり、その努力に優劣はない。
- ・鉄道事業では、社員個人だけで収益を生み出すことはない。社員のチームワークや会社全体で生み出している。汗をかき、頑張っているのはすべての社員である！

**社員が安心して働き、生活するためには  
定期昇給と昇給係数4を前提とした賃金が必要だ！**